

**Q** 扁桃から白いかたまりが飛び出ている。病気の可能性は？

三十六歳、男性。最近、のどに異物感があり、気になって仕方ありません。鏡で口の中をのぞいてみると扁桃の小さな穴から白いかたまりが飛び出ています。指を突っ込んでとろうとしますが、のどの奥のほうにあるためなかなかとれず、とれてもまたすぐにできてきます。扁桃からでてくる白いかたまりはなんでしょうか。一度、とれたかたまりのにおいをかいてみたのですが、とてもいやなおいがありました。病気の可能性はあるのでしょうか。

(北海道 M・S)

**A** 膿栓と思われるが、必ずしも病気ではない。うがいでも予防を

**扁桃腺**（正しくは「口蓋扁桃」あるいは単に「扁桃」といいます）は、のどの両側にあつて、アーモンドのような形をした親指大のリンパ組織です。

扁桃はその構造や存在場所から、鼻と口から侵入してくる細菌やウイルスの感染を受けやすいところです。扁桃にはリンパ球が集まっており、その表面にはたくさんの凹凸



があつて、体内に侵入してくる細菌やウイルスなどの病原体を捕らえて効率的に殺せるような構造になっています。

この陥凹は扁桃の実質内に深く入り込んでおり、陰窩（いんご）あるいは腺窩（あだんご）と呼ばれています。陰窩の奥には細菌の死骸である細菌塊、剥脱した扁桃の上皮細胞、食べ物のカスなどがたまっていきます。このカスを膿栓と呼び、口腔内の細菌にとっては格好の栄養培地になつていきますから、独特のいやなおいがあります。相談者のいう白いかたまりも、おそらく膿栓でしょう。

膿栓は正常な人でもしばしば見られ、扁桃周囲を圧迫すれば排出されます。おもに口蓋扁桃に付着しますが、咽頭扁桃や舌根扁桃などのワルタイル輪を構成するリンパ組織にはどこにでもできるものです。

膿栓は、そのこと自体が必ずしも病的なことではありませんから、とくにほかの症状がなければ、放置してもなんら差し障りはありません。

しかし、次の場合には治療が必要となります。

① かぜをひくたびに高熱やどの痛みがでる急性扁桃炎をくり返して、日常生活に

多大な影響がでている場合。

② 扁桃は大きくなくても扁桃周囲炎や扁桃周囲膿瘍などの重症感染症をおこしやす

い場合。

③ 病巣感染と呼ばれるリウマチ熱、慢性関節リウマチ、掌蹠膿疱症、腎炎などほかの臓器に悪影響をおよぼす慢性扁桃炎のある場合。

④ いびきや睡眠時無呼吸症の原因となるような扁桃肥大がある場合。

また、膿栓がつねに存在すること口臭の原因になつて、日常生活に支障がある場合にも治療の対象となります。

膿栓の予防法としては頻回にうがいを行うことですが、それだけで完全に除去できるものではありません。耳鼻咽喉科では専用の器具で膿栓の吸引や陰窩の洗浄処置が行われます。

陰窩洗浄は、保険診療で両側四〇点、つまり三割負担の人で二〇円の処置です。一時的に膿栓が除去されることにより不快感は改善しますが、根本的な治療ではありません。耳あかの掃除と同じように、たまってくれば除去するということをくり返すことになり

陰窩洗浄処置は、咽頭反射が強い人や経験的に耳鼻咽喉科における処置の苦手な人には向きませんから、そのような人はよくうがいをするといい日常での自己管理を励行されるとよいでしょう。

扁桃に対する外来手術としては、高周波電気で陰窩の表面をつぶしてしまう高周波電気凝固術、とくに最近になつて実用化されたCoblatorやColumというラジオ波凝固装置による扁桃の凝固縮小手術があります。

根治的治療法としては口蓋扁桃を完全に除去する口蓋扁桃摘出手術が行われますが、治療の必要性和手術のリスクに関しては耳鼻咽喉科の診察を受けて、主治医の先生とよく相談してください。

## 回答者

笠井耳鼻咽喉科クリニク院長

笠井 創



〒152-0035 目黒区自由が丘1-29-14 J・フロントビル3F  
☎03-5729-4187